

#### ○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可を得ましたので、私、公明党、松尾陽輔の一般質問をただいまより始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

きょうの佐賀新聞の1面に、東京株式市場がバブル崩壊後26年ぶりの最安値を更新したという記事が載っておりました。26年ぶりですから、昭和57年以来ということですね。この最安値がどういうことを意味するかといいますと、この3月期はといいますか、3月は決算をする企業が多くあります。そういった中で、この株価の安値が続きますと3月決算を迎える企業が、また、その企業の業績が一段と悪化するということでございます。

佐賀県内を見ても、売り上げ不振が深刻化して、現在、景気の悪化が鮮明に出てきております。当武雄市においても、若木の工業団地に進出を予定していた企業が進出を一時取りやめ、こういった状況の中で、これ以上、中小企業の業績が悪化しなければと危惧している一人でもございます。そういった中であって、当武雄市の財政状況についても、このような景気動向の中で、行政として財政面でどのような施策を講じていけばいいのか、しっかりと見ていく必要がありますので、今回も第1番目に財政の健全化と予算の執行について質問をさせていただきます。

2つ目には、武雄市の10年後、20年後を見据えたときに、避けては通れない大きな課題が皆さんあります。それは、世界に例を見ない少子・高齢化であります。今、この少子・高齢化に対して行政が具体的に手を打っていかないと、特に周辺部の少子・高齢化が5年後には押し寄せようとしている今、身をもって実感している一人でもあります。こういったことで、2つ目に武雄市の超少子・高齢化への取り組みと課題について質問をさせていただきます。

まず最初の、財政の健全化と予算の執行については、昨年9月に総務省が各自治体の財政健全化法に基づき、07年度の自治体の財政指標が公表をされました。前回は紹介をいたしました。北海道の夕張市など3市村は破綻状況の中で財政再生団体というレッテルが張られました。さらには、和歌山市などの40市町村も黄色信号の早期健全化団体としての公表がせんだってされておりました。

このような自治体が財政再生団体、あるいは早期健全化団体となったときに、私自身、市民の皆さんへの負担増加、さらには各施設の統廃合によるサービスの低下といったことが、問題がなければ私は別に心配はしませんけれども、実際、同じ日本に住みながら、同じ国民でありながら、北海道の夕張市は財政破綻による市民の負担が、具体的には税金が、また各施設の使用料が全然違うわけです。そういったことで、この財政破綻による最終的な負担は、市民の皆さんにのしかかってくるわけでございます。このことを思うときに、武雄市も市民の皆さんに負担がのしかかっているからでは遅いわけですから、その前にしっかりと財政の筋道を立てながら、また、財政の筋道を立てていくことが市長の責務であり、また、我々議員も一緒になって財政の筋道を立てながら検証していく責任があるわけです。このことを踏まえ

て、最初の質問に入っていきます。

今回、第2次補正予算の関連法案が可決をされ、武雄市でも今回大幅な補正予算と新年度の事業が計画をされているようであります。100年に一度と言われる経済不況が押し寄せている今日、武雄市の財政指標は、今のところは青信号だと私は判断をしているところでございますが、何もしなければ、また手をこまねていては、この青信号が黄色、赤信号へと陥っていく可能性が全くないということではございません。そういったことで、財政の健全化を図っていく上で基本的な考えをまず市長にお尋ねいたします。

皆さん、歴史をさかのぼってみますと、江戸時代に藩の財政を見事に立て直した3人の改革者がおります。市長も御承知と思いますが、幕末の激動を駆け抜けた人物であります。1人は、松平藩の窮乏した財政を立て直した本多圭、2人目は米沢藩主の上杉鷹山、そして山田方谷であります。特に山田方谷は、今の岡山県の備中松山藩の未曾有の財政危機を救った人物であります。この山田方谷は、元締役の勘定奉行を命ぜられ、10万両の借財を8年間で10万両の蓄財に変えた人物であります。

この山田方谷がとった政策とは、産業振興、負債整理、藩札刷新、上下節約、民政刷新改革、教育改革、軍制改革の7つの政策でありました。この7つの政策の基本的な考え方は、財政の健全化といっても、財政のみにとらわれてはいけないということでありました。財の外に立つ政治の重要性を指摘して、山田方谷はこの7つの政策を同時遂行して、また、同時遂行することによって、その政策がお互いにリンクし合いながら相乗効果を高めて、全体としての問題解決をしたのであります。この点が非常に大事な部分であり、この点が私の考えと全く一致したところでありましたので、幕末を立て直した3人の人物を紹介させていただいたところでありました。

今で言う産業振興とは特産品の育成であり、負債整理とは綿密な返済計画と事業の見直し、藩札刷新は信用を得るための私募債の発行、上下節約は市民への負担軽減、民政刷新改革とは市民共同参画、パブリックコメントの導入、さらに、教育改革とは人格形成と教育支援制度の充実、最後の軍制改革とは、今で言う自治体の競争に打ち勝っていく独自性の発揮、あるいは観光戦略ではないかと私は解釈をしたところでございます。

あのイギリスのブレア首相が財政再建のためにとった施策の一つとして、彼は教育改革に全力を注ぎ、物事の考え方、人材育成に徹底して予算をつぎ込み、財政の健全化を推進されたことは御承知のとおりだと思いますけれども、樋渡市政でも、産業振興面ではレモングラスに加えて今回イノシシの特産化、上下節約では水道料金の引き下げを実施、軍制改革でいいますと、武雄のがばいばあちゃんのロケ誘致とG A B B Aの全国デビューによる武雄市のPRとの判断をさせていただきながら、市長もこの山田方谷の7つの政策ではありませんが、財の外に立つ政治の重要性を認識しておられる首長として、今後とも財政の健全化に向け、一層の幅広い施策を同時遂行していただきたいと強く要望をさせていただき、山田方谷の7

つの政策をリンクしながら、市長の具体的な財政健全化への方針をいま一度確認しておきたいと思います。御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

市政運営について山田方谷さんの話が出ましたけど、もうまさにそのとおりだと思います。私といたしましては、まず住みやすい武雄をつくらなきゃいけないということで、先ほど出ましたように水道料金を14%の引き下げ、そして今度、介護保険料が15.8%の引き下げ、とにかくやっぱりこれだけ負担が重くのしかかっている中、我々としては生活第一を掲げる必要があるだろうというふうに思っております。

それと次に、武雄が魅力的なまちとして多くの人たちにお越しいただくと。これは市民の皆様たちのおかげをもちまして、流入観光客数が20%以上ふえています。そういった皆さんたちが来ていただくことによって、産業の活性化がまた生まれるというふうに思っております。そして中・長期的には、これは前も申し上げましたけど、私は医療を中心としたまちづくりをぜひ行っていきたいというふうに思っています。24時間365日、何があっても市民の皆様たちを守る。そして、すぐれた検査ができることによって、多くの市内外の皆様たちにお越しいただく。そういう農業、観光とセットにした複合的なまちづくりを進めていく必要があるだろうというふうに思っております。したがって、武雄は非常に今ピンチの中にチャンスを迎えていると思います。これを私は肝に銘じてする必要があるだろうというふうに思っております。

そしてまた、武雄が恵まれておりますのは、すぐれた議員の皆さんたちであります。私もいろんなところで非常にいいアドバイスをいただいています。そういった意味で議員さんたちは私たちの、これは失礼な言い方になるかもしれませんが、私は財産だというふうに思っております。

そして、私たちの職員であります。古賀副市長を初めとして、いろんな政策的な議論、意見が合わないときもあります。しかし、議論をすることによって武雄をさらによくしていこうということで、私たちには優秀な職員、やる気のある職員、スタッフがそろっているというふうに思っておりますので、今後とも鋭意一致団結して武雄市政に当たっていききたいというふうに思っております。

終わりにしますけれども、何よりも気持ちの問題であります。武雄市民の皆さんたちが本当に武雄に住んでよかったと、誇りに思うようなまちづくりをする必要があるというふうに思っておりますので、ぜひ議員皆様方のお力添えを賜りたく思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4 番松尾陽輔議員

○4 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

感銘をさせていただいてありがとうございます。市長は現代の山田方谷と私は思っておりますので、いろんな分野で施策を同時遂行しながら、先ほど言いました、お互いの政策をリンクし合うことによって相乗効果が高まって財政健全化に向かうということですので、その辺は積極的にいろんな手を打っていただきたいと思います。そういったことで、山田方谷の言葉に「政治で大切なことは民を慈しみ育てることである。それは大きな力となる。厳しい節約や倹約だけでは民は萎縮してしまう」という言葉があります。そういった言葉を肝に銘じていただきながら、施策を打ち出していただきたいと思っております。

そういったことで、先ほど言いましたように、市民の皆さんに負担がのしかかってからでは遅いわけですから、そういうふうな状況に陥る前に積極的にいろんな手を打っていただきたい。ただ、先ほど言いました、非常に今経済が冷え切っております。そういった形で、財政の予算と事業をいかにリンクしながらしていくかというのが非常に今後の財政をつかさどるといえるか、運営していく上での課題といたしますか、問題がのしかかってきているかと思っております。

そういったことで、もう少し予算的に中身に入らせていただきますと、今回、政府は景気対策として08年度の1次補正、それから2次補正、また、さらには新年度予算で、国全体で75兆円規模での経済対策が打ち出しをされております。75兆円と申しますと、1年間の国の予算相当に当たる大きな経済対策でありますけれども、その中で最初に地域活性化・緊急安全実現総合対策交付金、さらには生活対策臨時交付金が武雄市へも交付金として入ってきているかと思っておりますけれども、総額どのくらいこの交付金が入ってきているか、まずお尋ねをさせていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

まず、1つ目の地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金で2,146万円、それから2つ目に地域活性化・生活対策臨時交付金として3億891万円、計の3億3,037万円でございます。

○議長（杉原豊喜君）

4 番松尾陽輔議員

○4 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今回、交付金が合わせて約3億3,000万円入ってくるということで確認をしたところですが、今回の補正予算を見ますと、補正前の予算額が204億455万円、それで今回3億3,000万円入ってきたにもかかわらず補正後の予算額が204億8,615万円と、差し引きしま

すと8,159万円しかふえていないわけですね、この補正の中では。実際3億3,000万円入ってきておるわけでしょう。ただ、総体的にこの予算書の中で、当然私は臨時的な経済対策交付金ですから丸々ふえているかなという思いで、予算書を拝見してチェックを小まめにさせていただいている中で、8,159万円しかふえていないということでちょっと疑問を持ったものですから、この辺はもう少しわかりやすく御説明を願いたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

大庭総務部長

**○大庭総務部長〔登壇〕**

お答えいたします。

先ほど申し上げました、国の経済対策を受けた事業でございますけれども、まず1つ目の地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金につきましては、市道追分医王寺線、新橋橋梁調査ほか3事業を行うようにしております。

それから、2つ目の地域活性化・生活対策臨時交付金、これでは商店街活性化プレミアム商品券事業とか一般道路改良事業の上乗せ、それから小・中学校地上デジタルテレビ整備事業等を含めて21件の事業を行うことによりまして、先ほども申し上げましたように3億3,037万円を事業費として計上しているところでございます。

ただ、議員おっしゃいますように、結果的に8,000万円ぐらいの追加補正としかになっていないんじゃないかということでございますけれども、これにつきましては通常の補正分といたしまして、事業費の最終見込み等によりまして約2億6,000万円を減額補正しております。そこで、先ほどの国の経済対策対応分として約3億4,000万円の事業を追加いたしましたわけでございますけれども、結果的に約8,000万円の追加補正という形になったということでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

その辺は、私もチェックは事前にさせていただいたところでございます。そういった状況の中で、繰入金も1億7,000万円減額ですね、それと市債の借入れも4億2,000万円減額です。当然、健全化をする上では借入れをしないほうがいいわけですから、その分を全体的な形の中で見ると、私は当然今回の緊急対策交付金はその分だけは上乗せして、何とか地域活性化のために使うべきではなかったかと思う一人であります。

ただ、こういったことで当初言いましたように、財政の健全化と予算の執行というのは非常に難しい関係がありますから、一概に指摘するだけではいけないところがありますから、もう少し私自身もその辺の中身を詳細にわたって確認をさせていただきたいと思いますが、

もう少し具体的に事業の中身をチェックさせていただきたいと思います。

先ほど言われましたように、地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金は3事業実施をしていますよと、それから生活対策臨時交付金が21事業をしていますよということで説明を受けましたけれども、その中で西川登小学校の2期工事、総額が8,318万円。1期は終わっているわけですから2期工事、当然すべき工事ですよ。もちろん、これ予算をつけないでよかろうということは一切申し上げませんから。当然、2期工事としての予算は必要です。

ただ、投資的経費の総額調整ルールということは御存じかと思いますが、もう2期工事ですから、1期、2期、3期ということで、初年度、次年度、3年度という割り振りの中で予算づけをすべき投資的経費の事業ではないかと私は判断をいたした次第です。これをあえて今回の交付金で算入するというのは、ちょっとおかしいんじゃないかと。これは交付金の枠外でしっかりと予算をつけて、この3億3,000万円は景気対策につき込むべきじゃないかということで指摘をさせていただきますけれども、市長の御見解をお尋ねいたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さっき聞いていて、なるほどなと思って聞きながらおったんですけど、ただよくよく考えてみた場合に、我々は計画行政というのがあります。この場合に計画行政というのは、例えば、西川登小学校の場合は何年に何をやる、これは議員と同じ考えなんですけれども、これをなるべく前倒ししてするということも多分求められていることだと思うんですよ。したがって、私としては今回の予算の枠というのを別枠ではなくして、なるべく市民の皆さんたちが望んでおられる事業を計画的かつ、なるべくできることだったら前倒ししてできることにしたほうがいいんじゃないかということで、我々は協議をして今回の予算計上に当たっております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

前倒し事業ができる分であれば当然前倒しをしながら、いろんな雇用も生まれてきますし、いろんな地域の中小企業の方々の活性化にもつながると思いますけれども、ただ予算の枠ということのとらえ方、考え方に立てば、これは総額調整ルールからいけば、別枠として予算を確実に別建てで確保しながら、今回の交付金に関してはもっと幅広い視野で観光面、いろんな形の中で使うべき予算ではなかったかと思いますが、その辺を指摘しながら、またこういうようなことがあれば、そういうことをお含みおきをいただきながら予算の執行に当た

っていただきたいと思ひます。

それと、商店街の活性化のためのプレミアム商品券の事業についても予算が計上されております。午前中にこのプレミアム商品券の質問も出ておりましたけれども、これは1月の私の一般質問で、総額8億円の給付金の支給に伴い、地元経済、地元商店街の活性化の起爆剤となるように、市が商店街、あるいは商工会議所、商工会と連携して、具体的な地域活性化になるよう、具体的な取り組みをお願いしたいということで提案をしていた一人として、いま一度、プレミアム商品券の内容についてお尋ねをしながら、また、その商品券は経済効果が一番気にかかる場所ですけれども、その辺も含めながら御答弁をいただければと思ひます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

#### ○前田営業部長〔登壇〕

今回の国の制度によります定額給付金に合わせまして、きのうからも言っておりますように会議所と、それから商工会のほうで今検討がされております。そういうことで、大規模店はもとより、小規模の地元の商店街がますます活性化するような施策を今から打たなくてはいけないということで、これらについては商店街、あるいは旅館等にも、うちのほうから中身について協議をして、より有利な有効な施策になるように今からやっていきたいと思ひています。

そういうことで、商品券の中身でございますけれども、きのう若干申し上げましたが、事業の実施については、武雄商工会議所と武雄市商工会、4月1日に北方、山内の商工会が合併しますので、4月以降については武雄市商工会となる予定でございます。

それから、発行の総額は1億1,500万円でございますが、そのうちに1,500万円がプレミアム分ということでございます。これについて市のほうから、今回の交付金を活用しまして助成をするように予算をお願いしております。

それから、券の発行の方法でございますが、1セットで500円の券のつづりで、まずは専門店券ということで、これについては大型店、店舗面積が1,000平米以上については使用できないということで専門店券を半分、これについては5,000円に2割分のプレミアをつけるということでございます。そういうことで、500円券が12枚になります。それから一方、共通券、これは大型、小規模の商店でも使用できる券でございますが、これについては5,000円に10%上積みをして、500円券が11枚ということになります。これをセットで購入してもらおうということでございます。

それから、発売の方法でございますが、これについては商品券等の印刷の期間がかかりますので、今のところ5月の中・下旬ぐらいを予定しております。これについては5月の市報で正確にお知らせをしたいというふうには思ひています。

それから、使用の期間でございますが、8月の末までの使用ということで今考えています。それから、券の購入の限度でございますが、1万セットでございますので、1人2セットを限度とするということです。

それから、事業所につきましては午前中申し上げましたように、市内の商店で業種の選定はしないということで、ただ加盟店として登録はしてもらおうということで考えています。その際、加盟料を店舗当たり1,000円ちょうだいするというところでございます。

それから、加盟店の商品券の換金の方法でございますが、これについては今市内の金融機関と調整をしております、商店の方が金融機関で換金をするということで、口座振替の方法で考えております。

それから、今後の流れでございますけれども、3月末に会議所、あるいは商工会の役員会でこの事業の承認をして、3月の末に加盟店の募集のチラシ、それから商品券の印刷の発注をして、4月の中旬に加盟店の募集をする予定です。それから、5月の初めぐらいに商品券の販売の告知をして、その後、商品券の販売を開始するというので、使用については8月末までの使用として、9月中旬までぐらいに換金を終了したいというふうに今の段階で計画をしております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

商品券の発行、発売の目的は、要するに地域経済の活性化が第一の発行目的だと思いますから、ぜひ抜かりのないように準備をよろしく願いさせていただきながら、ちょっとこの商品券に当たってもう1点の確認、お願いですけれども、ただ先ほど申し上げたように、事業の主催者は武雄市商工会議所、また各商工会ということになっておるかと思っておりますけれども、市民の皆さんに全員平等に行き渡るといいますか、例えば、公民館での発売、あるいは高齢者の方々への配慮、あるいは周辺部の方々も購入しやすいような配慮も当然必要になってくるかと思っております。要するに5,000円券が6,000円になるわけですから、平均的に15%の上乗せのプレミアムつきの商品券ですから、その辺が平等に行き渡るといってほしいというふうな形と、また市内の方々限定されるのかどうか、市外の方々も商品券の購入に際しては購入の権利があるのかどうか、極端に言えば、市外から来られて買われたほうが武雄市にお金が落ちるわけですから、経済効果は非常にあるわけですね。ただ、それだけでは市内の皆さんにメリットが少なくなるというふうな形もうかがえてきますから、その辺はちょっと判断が難しいところですが、そういうようなところの御見解をお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**



樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

配布の場所を含め方法については、よく商工会議所、武雄市商工会と協議をしていきたいと思っております。基本的には議員がおっしゃったとおりだというふうに思っておりますので、その思想はきちんと受け継ぎたいというふうに思っております。

一つの案として、予約をしていただくというのはあるのかなと思いついておりました。そうすると、いつでもどこでも予約ということで、先着順はあるかもしれませんが、これも一つの方策としてはあるのかなと思ったのは、個人的な見解として述べさせていただきます。

それと、市内、市外のお話でありましたけれども、できる限り市内の方々に優先的に買っていただきたいというふうに思っています。ただ、これは住所チェックもなかなかしづらいんですよ。実際、他市の方々が来られたときに、いや、それはだめですよとはなかなか言いつらい部分が窓口であろうかと思っておりますので、できる限り、これはお願いですけれども、市内在住者、あるいは市内で働いている方々にぜひ御購入をしていただいて、そういった方々が市内で使っていただくと。これは樋渡議員のときにもお答えをいたしましたけれども、できる限り市内、地元で買っていただくと。それが生活対策にもなりますし、経済波及効果にもつながっていくというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともその辺の配慮と、周辺部あるいは高齢者の方々への配慮と、ぜひ有効的に活用ができるような商品券となるようによろしく願いしておきます。ただ、販売金額が1億円ということで限られていますから、ちょっともうそこで売り切れたということも非常にそういうふうな部分があるかと思っておりますけれども、その辺は慎重に取り扱いをしていただいて事業を進めていただきたいと思います。

そういった感じで、この商品券と定額給付金というのは関連していますので、この定額給付金の支給については政府・与党、特に公明党が提案をしてきたというふうな形の中で、私からも確認をさせていただきたいということで質問をさせていただいておりましたけれども、4月20日前後に支給ということで、一日も早い支給を私からも切にお願いをさせていただきたいところですが、もう今や給付金詐欺が全国あっちこっちで起きているというような状況の中で、通知書を発行されるときにそういうふうな詐欺注意の呼びかけ、あるいは受け付け時間、それから受け付け場所等も大きな字体ではっきり見やすいような資料、チラシもつくっていただいて同封していただいて、市民の皆さんにその辺の給付に当たっての周知徹底をお願いしたいという部分の中で、その辺の市の対応について御見解をお尋ねしてい

たいと思います。また、もしそういうことであれば、ぜひしていただきたいということで提案もしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

給付金につきましては関心が高いところですので、再度給付日についてお話しいたしたいと思いますが、4月24日に第1回目の振り込みをしますので、早い方は24日にもう通帳に入ると。ただ最近、ゆうちょ銀行の問題等、もう御存じかと思いますが、他の銀行より若干おくれるという場合がありますが、4月24日には第1回の申請の方にお支払いができるというふうに思っております。

それから、給付金詐欺等の問題でございますが、昨日もお答えしましたが、申請書の中にそういうふうなものの注意、申請書に振り込め詐欺の注意、あるいは市内での消費、そういうことについて大きな字で出したいというふうに思っております。

それから、申請書の受け付けでございますが、郵便受け付けもございます。それと本庁、支所の窓口、それと各町の公民館での休日の受け付けと、市民の皆さんが労働時間等の関係で困らないような対応を十分にいたしたいと、あるいは身障の方、来られない方につきましては、出向いてでも申請書を受け取りたいというふうに内部で検討いたしておりますので、よろしく願いいたしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

その辺の徹底はよろしく願いしておきます。ちょっとさっき情報が入ってきましたけれども、佐賀県内でももう給付金の詐欺が、役場職員の担当者を名乗って口座番号とかなんとかを聞き取りしているというふうな事案も出てきておりますから、その辺の詐欺の呼びかけ注意に関しては、最善の注意を払っていただきながら周知徹底をよろしく。せっかくいい制度ですから、喜んで活用していただきたいと思う中で、その辺の徹底をよろしく願い申し上げたいと思います。

それとまた、予算の中を見ていきますと、小・中学校の地上デジタルテレビの整備事業ということで、もう4,000万円ほど事業の予算づけがされているようであります。そういった形で2011年からは普通のアナログは見られんごとなるわけですから、そういった状況で、2011年の対応ということで小・中学校はこのような形の予算づけの中で対応されておられますけれども、一般の家庭といたしますか、なかなか買いかえができないとか、電波が入りにくいか、いろんな形の個々の家庭、個人におかれましてはそういう問題が出てくるかと思えますから、その辺は今後、地上デジタル化に伴っての市の対応について次回の質問とさせて

いただき、21年度の予算に移っていきたいと思います。

佐賀県の来年度予算が前年比8.2%、金額にして320億円の増加、来年度予算ですよ。8.2%の増加といいますと、9年ぶりの増加ですよ、佐賀県は。そういうふうな形の中で当武雄市の21年度の予算書を見ると、ちょっと厳しい数字といいますか、5.2%の減額、金額にして予算が前年度比9億円マイナスですよ、金額にして先ほど言いました9億円。今こういった地域経済が疲弊している中で、9億円の予算減というのは非常に大きい数字だと私は痛感をしておりますけれども、佐賀県はふえているけれども武雄市は減額せざるを得なかったと。なぜ減額をしなければならなかった今回の予算であったのか、もう少しその辺の詳しい中身を確認させていただきたいと思います。御答弁をお願いして終わります。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

21年度当初予算につきましては185億6,151万円、議員おっしゃいますように前年比5.2%の減、額にして10億2,773万円の減というふうになっております。今回、先ほどの経済対策とあわせて、国のほうから地域雇用の創出を推進するというようなことで、21年度から地方交付税において創設された地域雇用創出推進事業の配分予定額を原資に道路橋梁の維持補修、農林道、ため池整備、小学校、文化会館など、公共施設の整備費といたしまして約1億7,000万円を通常事業費と別枠で増額しておりますけれども、小学校施設整備費、これは西川登小、朝日小のグラウンド等でございますけれども、これで約5億6,787万円の減、それから公的資金の補償金免除繰上償還金が2億5,739万円の減というようなことで、事務事業計画に基づきます事業費の大幅な減少などによりまして、20年度当初予算と比較しまして予算額が大幅に減少したというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も21年度の予算の事業の中身をチェックさせていただきました。いろいろな事業の、また補助金の削減という部分の中で9億円の今回の5.2%の削減が出てきている状況ですけれども、先ほど言いました100年に一度の今の経済危機を何とか、また、特に今地域が冷え込んでおります、もう予想以上ですよ。何とか活性化のための事業の予算づけをぜひともお願いさせていただきたいというふうな状況の中で、今回5.2%、9億円の削減ですね。ここに先ほどの定額給付金の8億円がいかに大きな今回の経済政策であったかというのが、非常に私は鮮明に出てきたんじゃないかなというふうな形で、今回の定額給付金のとらえ方をさせていただいているところでございます。そういった形で、何とか8億円を地元の地域経済に、

今テレビでもごらんの皆さん、市民の方々もぜひとも地元で買い物をということで切にお願いをさせていただきたいところであります。

そういった状況の中で、いま一度21年度の予算の特徴と主な事業の中身をお尋ねしていきたいと思いますけれども、具体的に何点かお尋ねをしていきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

主な事業ですので、私からお答えをいたします。

まず、乳幼児医療費助成の対象者を就学前まで拡大をいたしました。

次に、妊婦健診の無料化を年5回から14回に拡大をしております。これは政府・与党、なかんずく公明党さんの御指導によるものだと拝察をしております。さらに防災行政無線の整備、これは牟田議員から来ておりましたけれども、特に周辺部の安全・安心対策の一助になるようにするというところであります。

次に、イノシシ被害の防止であります。イノシシ被害の防止とイノシシ肉特産化事業に充てたいと。それと、ごみ減量化に取り組む組織に対する補助、これは山口裕子議員から御指摘のあったとおりであります。

次に、西川登小学校校舎改築事業費であります。これが額的にも非常に大きい、単独では額的にも大きくて1億4,500万円でございます。

次に、主要道路整備事業に約1億6,000万円、市道の維持補修費に約1億8,000万円と。これは新たに道路をつくるよりは、むしろ今ある道路をきちんと修繕をして長く使えるようにする、それと安全・安心対策のために予算を使いたいという趣旨のもとでこれだけの予算を確保しております。

レモングラス推進費、レモングラスを活用したイノシシ、キジ材の研究、これは10万円とたかが知れておりますけれども、そういったことで我々としては、1つが子育て支援、1つが生活者支援、それともう1つが、今あるものをきちんとやっぱり使っていこうということから、予算をその分野に重点配分をしております。

ちょっと額が減ったんじゃないかという御指摘ですけれども、もともとそれ以上に税收、あるいは各種交付金が10%以上減っているわけですね。この中から、ある中で我々としては身の丈いっぱい予算を組んでいることだけはぜひ御理解をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

いろんな来年度の新規事業の説明を市長みずから御答弁いただいたわけですが、私

からも二、三点確認をさせていただきたいと思いますが、先ほど市長からも妊産婦健診の14回までの無料化ということで、今まで武雄市は2回でしたけれども、何とか5回ということで、昨年御提案を申し上げて5回まで無料化、さらには今回、14回まで無料化ということでされておりますけれども、また、そういうふうな中で4,254万円の予算もつけていただいておりますけれども、その14回で健診費用が約12万円ぐらいかかると、平均的にですね。

ただ、自治体によって若干、14回の基本健診等がいろいろ健診の中身によって異なりますけれども、健診の費用が全額無料になる自治体と、ある程度負担をせんといかんというふうな自治体があるようですけれども、その辺の、無料化とって実際受診を受けて払うときに、この分は有料ですよというわけいかんものですから、武雄市が14回というのはどの辺までが全額無料なのか、その辺をもう少し具体的にわかれば御説明をいただきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

藤崎こども部長

**○藤崎こども部長〔登壇〕**

妊婦健診の費用のことをございますけれども、先ほど議員おっしゃられました、20年度までは5回の健診で無料というふうなことになっております。21年度から14回に拡大したいと思っておるところでございます。予算措置もお願いしているところです。

先ほど妊婦1人当たりの単価ということで申し上げられましたですけれども、今回、妊婦健診の費用につきましては、県統一の5,970円で14回というふうなことで予算を計上しております。5,970円の14回で83,580円というようなこととなりますけれども、先ほど議員が言われました9万円程度のあれにつきましては、ちょっとそこで個人負担が出るかとも思われます。武雄市は今のところは、先ほど申しましたように5,970円の14回分とさせていただいているところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

武雄市の場合は5,970円の14回、約8万3,000円は支給ということで確認をさせていただきましたけれども、やっぱり喜んで、安心して受診をしていただくためにも、この辺は確認をさせていただいたところですが、妊産婦の健診事業については単年度事業なものですから、政府・与党としても継続的に、単発に終わらないように、また、予算づけの交渉は私も今後徹底して国のほうにも打診をしていきたいというような形で思っております。

もう1点、今回新しく事業で予算づけがされております、また、市町村型の戸別浄化槽の条例の上程がされております。この市町村設置型戸別浄化槽に関しては、設置が早く、コストが安く、それから負担も少なく、財政面でも一番効率がいい市町村設置型の合併浄化槽を

以前から導入を提案させていただいた一人として、やっと今回、来年度実施ということではっきりしているところですが、もう少し具体的にこの辺の、どのような形での整備計画をされる予定なのか、事業の対象地域等を含めて御説明をいただければと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

この市町村型、まず対象区域ですが、公共下水道区域——今、武雄市には汚水処理整備計画というのがあります。その中で、公共下水道とする区域、農集とする区域、あるいは合併浄化槽とする区域という3地区を決めているわけですが、公共下水道とする区域が武雄市街地の分で約430ヘクタールあります。それで北方町のほうで200ヘクタール、この合計630ヘクタールの分を公共下水道区域ですと。あと農集区域というのが矢筈、川内、それと山内町にあるわけですが、これ以外の全地区を今回の市町村型でやるというふうに計画しております。

この市町村型というのは、集合処理の場合は、処理場をつくって処理場から各家庭に配管していくわけですが、今回の場合は、この市町村型というのは、その処理場のかわりに各家に浄化槽を設置すると。浄化槽を設置しますので、その浄化槽に各家庭からの排水を流してもらうというのが市町村型の概要でございます。

それでもって、その市町村型を設置するのは市が設置すると。個人さんについては、その浄化槽に流すまでの家庭程内の配管をしてもらうと、それは自分の費用ですね。そういうふうなシステムになっております。それでもって個人さんの工事に対する負担金、これは15万円を今予定しております、15万円で市が全部浄化槽を設置するということでございます。21年度、新年度は120基を予定しております。ただ、計画としましては年間平均を150基で20年間、全部で3,000基を目標として実施するというふうになっております。

それで使用料でございますが、これは公共下水道と同じく水道のメーターでの使用量という形になるわけですが、メーターが10立方メートルまでを2,000円、それを超えるごとに180円の加算という形で、一般の標準世帯であれば大体水道のメーター使用量が20立米ぐらいじゃないかと思うわけですが、その場合で月に約4,000円の使用料ということになります。

以上でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

ある程度対象地域もわかったかと思いますが、実際、もう少し現場に入り込んでどうか、地域に入ってこの辺の説明をしていただかないと、なかなか市民の皆様はわかりづらいと。全体で公共下水道は630ヘクタールですか、そのほかの地区ですよといってもなか

なか、そうしたらうちほどの対象やろかという部分がありますから、その辺は小まめに地元の説明会を開催しながら、その辺の普及に努めていただきたいということの徹底をお願いしたいと思いますし、今回、市が設置しますものですから、市が所有者ということの中で、戸別浄化槽の発注先、発注あたりは恐らく地元業者の指名業者に限定されてくるかと思いますが、そこら辺の発注方法についてももう少し詳しくお尋ねをしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

工事の発注につきましては、申し込み受け付けを新年度すぐ4月からするわけですが、大体ある程度、4基とか5基とか基数がまとまった段階で発注するというふうに今計画しております。ただ、どうしても申し込みをまとめて設計書をつくり発注という形をとりますので、いや、うちは急にこがんせんばいかん、あがんせんばいかんという形で、どうしても日程的に合わん場合も出てくると思います。そういうときは、その分だけ単体発注ということもあるかと思いますが。ただ、発注のときはうちが発注しますので、入札参加を申し込んでおられる方ですね、その中からの指名競争入札になるということでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

今回の戸別浄化槽の設置メリットは、先ほども言いましたようにコストが安いということと、最終的には地元の経済、業者の方々の浮揚策にもつながるということも一つの目的でもありますから、その辺はぜひともですね、いろんなケースが出てくるかと思いますが、その辺は事務方のほうで仕分けをしていただきながら、その辺の状況を把握しながら、徹底をよろしく願いしておきたいと思います。

それともう1点、今までは下水道課で農業集落排水事業、公共下水道、合併浄化槽を一元化されて事務の効率化等も図られたかと思いますが、会計処理は別々なんですよ。今回、合併浄化槽、戸別浄化槽に関しても特別会計で処理をされるということで勘定がまた新たにできたわけですが、やっぱり一元化をして管理したほうが水道事業自体、全容がわかるかと思いますが、ぜひこの辺の農排事業、それから公共下水、今回の合併浄化槽の経理の一元化の御提案というか、会計実態が見やすいというメリットがありますから、その辺の会計の一元化に関しての御見解はいかがでしょうか、お尋ねをしていきたいです。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

### ○松尾まちづくり部長〔登壇〕

会計の一元化につきましても内部で十分検討したわけです。ただ、公共下水道については国交省、それから農集排については農林水産、あと合併浄化槽については環境という形で、各補助金をもらう省庁が別々になっているわけです。それで、どうしても補助金申請という形になれば、個々の事業単位、事業メニュー単位に精算せにゃいかんということがございまして、やっぱり分けておったほうがいいんじゃないかと。ただ、仮に会計を一元化するとしましても款ごとには分けておくと、後で何かチャンポンみたいな形になってしまうんじゃないかというふうに思っております。

### ○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

### ○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

補助金の管轄が当然各省庁によって違って来るわけですから、また、個々の会計処理の寄せ集まりが一体という一元化ですから、当然個々には管理をすべきですよ。ただ、個々にしていただきながら全体として一元化をすべきじゃないかという御提案ですよ。そういった形で見れば、全容がわかるわけですよ。個々でやったら一つ一つ見らばいかんと、要するにこれは連結決算ですよ、企業で言う連結決算。これはぜひとも前向きに検討していただいて、取り組みをぜひともお願いしたいということで御提案をさせていただきます。

それでは、最後に21年度の事業についてもう1点確認をしておきたいと思っておりますけれども、ふるさと創生、人づくり、まちづくり事業として700万円計上をされているようであります。この点に関しては、もっと人材育成等、積極的な行政事業への参画、人材登用を考える一人として、人づくり、まちづくり事業に関しては700万円以上の予算をつけるべきじゃないかという思いの中で事業の中身を確認させていただいたところ、この700万円の事業というのはふるさと創生基金の中の補助事業ということで、例えばスポーツ大会に、全国大会に行かれる旅費、宿泊等の旅費の補助ということで非常に団体、あるいは家族の皆さんにとってはありがたい制度であることは間違いありませんけれども、もう少し助成の増額を今後お願いさせていただきたいということを切にお願いするとともに、私はもう1点、別の観点から人づくり、まちづくりという部分に関しては、今から人づくり、まちづくり、人材育成というのは、人を動かす能力の育成じゃなくて、人をいかに生かす能力を育成していくかという部分が非常に大事ななというような部分で思う一人でございます。人を生かす能力、人材育成、人づくりが、やがては自然にまちづくりにつながっていくんじゃないかというふうな考え方ですね。非常に今から行政面でも専門性が問われます。

そういった状況の中で、アドバイザーの誘致、あるいはアドバイザーの登録制度の導入、あるいは外部からの積極的な人材の登用というような部分の中で、観光、福祉、行政、すべての面でもう少し人づくり事業、まちづくり事業の事業予算をすべきと考える一人ですけれ



ども、その辺のふるさと創生基金でのもう少しの上乗せの補助金の増額と、一方での人づくり、まちづくりの考え方をお尋ねしていきたいと思います。御見解をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そのとおりだと思いますね。私はやっぱりいろんな施策であるとか、まちづくり、これは公、民に問わず、人が第一だというふうに思っておりますので、この部分については必要かつ十分な予算、あるいは施策というのをしなきゃいけないというふうに思っています。

今回のふるさと創生の人づくりでありますけれども、これもちょっと検証させていただきたいと思うんですね。これでちょっと足りないようでしたら、補正等でまたこれはきちんと対応する必要があるだろうというふうに思っておりますので、いずれにしても松尾議員と考え方を同じくするものであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ふるさと創生基金の補助事業におきましては、武雄市の代表として行っていておられるわけですから、いわば武雄市の観光大使ですから全額支給してもいいんじゃないかという思いの一人ですよ。その辺はもう一度精査をしていただきながら、補助金の交付要綱の見直しをよろしく願いしながら、また、別の観点から申し上げた人づくり、まちづくりという部分の中での事業の予算づけということも考えていただきたいと思っております。

それでは、次の少子・高齢化についてお尋ねをしていきたいと思います。

この少子・高齢化対策については、武雄市だけの問題ではないと私自身思っております。ただ、国も少子化対策に関してはいろんな補助金をつけたり事業を進めております。ただ、そういった部分と、実際子どもたちはふえているかという、なかなか事業の予算づけと子ども、正比例して伸びていかんわけですよ。右肩上がりという、人口がふえていってれば事業の効果というのが目に見えて出てくるかと思っておりますけれども、しなければもっと落ち込むかもわかりませんが、もう少し謙虚にその辺の人口の増加が見えてきてもいいんじゃないかという思いであります。

ただ、そういった状況の中で、国がいろんな施策をするに至っても、武雄市に手とり足とりしてやるかという、そういうわけいかんもんですから、武雄市としていかに魅力あるまちづくりを、いろんな事業をきっかけとしてつくり上げていくかというのが今後の一番課題かと思っております。

そういった状況の中で、人口減少と過疎化対策を考える会の会合に出席をさせていただき

まして、一番最初、会合の前に自分のまちの魅力を20書いてくださいと言われたわけですよ。20さっと市長書けますか。教育長、20ですよ。ないものねだりよりもあるもの探し、まず地元、自分の周りの魅力は何なのかというのを自分たちが身に感じていかなければ、なかなか人が集まってこないと。それは当然だと思います。やっぱりみずから——例えば、私は若木ですから、若木の魅力をいかに外に打ち出していくかと、また、自分自身魅力をいかに感じているかということをもう一回見直す時期かなというように思っております。

そういった状況の中で、この辺はもう少し私も検討しながら後で質問に移っていきたいと思いますけれども、まず、先ほど言いました少子化対策、子育て支援事業が今武雄市にどのくらい実施をされているかどうか、その点からまず確認をさせていただきたいと思います。御答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

藤崎こども部長

**○藤崎こども部長〔登壇〕**

お答えします。

どれぐらいの子育て支援事業がなされているかというふうなことでございますけれども、子育て支援事業として次世代育成支援行動計画に基づき、庁内挙げて110の事業に取り組んでいるところでございます。

こども部関係の事業の主なものとしたしましては、保育所に関する業務、乳幼児健診や妊婦健診等の母子保健業務、子育て総合支援センターの運営業務、放課後児童クラブ事業や学齢期以降のさまざまな体験事業、家庭、地域、学校、保育所等を中心とした食育の推進、また出生祝い金、乳幼児医療助成費、児童手当、児童扶養手当、ひとり親家庭医療費助成などの経済支援と養育相談やいじめ、不登校、児童虐待など、子どもが安心して育つために養育支援を行っているところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

少子化対策事業、それから子育て支援事業、110の事業ですよ。そういった状況の中で、当然対策を講じていく必要があるわけですが、その事業の精査といいますか、その事業の効果がどのような形であらわれているのかどうか、また、その事業に対しての課題として問題はないのかどうか、不都合といいますか、地域の実際そういうふうな支援事業を受けていらっしゃる方々のニーズに合っているかどうかという部分の中の分析、精査と、その辺の精査された後の結果に対しての取り組みは、その辺の検証は実際どのようにされているのかどうか、ちょっと御確認をさせていただきたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

次世代育成支援計画に基づいて各種事業を実施しているわけですが、各年度ごとに事業実績については取りまとめ、ホームページ等で公表しておりますが、まだ分析まではできておりません。ただ、全国的に出生数が年々減少する中で、喜ばしいことと思えますけれども、武雄市では18年に437名、19年度は463名と、わずかながらではございますけれども増加しております。

各種支援策が何らかの効果をもたらしているものと考えておりますが、また、なお平成21年度が計画の見直しの時期となっており、今就学前児童と小学生のいる世帯を対象に市内2,500世帯を無作為に抽出して、次世代支援に関するニーズ調査を行っているところでございますので、集まり次第、集計分析に入るようにしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

出生率はふえているということで非常に喜ばしいことですね。ただ、全体的な部分に関しては、分析はまだ行っていないということですから、その分析が大事なところですよ。やっぱり分析をして、どこに問題があるのか、現場でどういう意見があるのかというのを集約して、そのような状況の中で、補助金が終わったからこの事業はもうできませんじゃなくて、やっぱりいいものは市単独でも継続していくというような事業をしていかなと、国、県からの補助金が途絶えたから武雄市ではこれはできないですよというわけいかんものですから、その点の見きわめはどこですかというのは、事業を検証して継続していくべきものはしていくべき、あるいはもう一回これはまた違った形で運営を、活用していくものと判断をしていくのが大事なところですから、その辺の見きわめを、また分析を徹底してよろしくお願ひしたいと思えますけれども、市長、その辺の御見解をちょっとお尋ねしていきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やりたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

なぜかといいますと、いろんな事業、先ほど言いましたように、国も相当なる支援事業をしております。ただ、なかなか子どもたちがふえていないというのが現状ですから、どこか

に施策もですね、それは当然いい施策だと思いますけれども、もっと違った意味での施策の展開が必要じゃないかということで確認をさせていただいたところですから、その辺は当市にとっても大事な部分ですから、よく精査をしていただいて、いいものは残して、その分にもっと予算をつけて、よりよい住みやすい武雄、魅力ある武雄にしていきたいということを切にお願いしていきたいと思います。

ただ、そういった中で、非常にその辺の支援事業が、決め手というのが、私ども模索をしていますけれども、なかなか私自身も見出せません。そういった状況の中で、私も5人育てている中で中学校まではさほど、義務教育ですから余り費用はかかりませんが、高校、大学となると莫大にかかるわけですよ。私立大学になると、下宿させると4年間で1,200万円。もう1,000万円超えるという時代ですから、もう少し高校生、大学生を抱える家庭に何か補助的な部分ができないかなど。現実そういう実態ですから、武雄市でもその辺をもう少し考えていく事業を、もう少し私も時間をいただいて6月の議会でも提案をしていきたいところです。

そういった状況の中で、5年、10年後に来るであろうといたしますか、超少子化に備えた具体的な対策を今講じていかないと、もう極端に言えば、若木町なんかは来年度は1,900人を割り込んで1,800人という人口に陥っていく状況の中で、それはいろんな定住特区の中で何とか人口をふやすような施策も市長が陣頭指揮をとっていただいておりますけれども、なかなかふえてこないと。

そういった状況の中で、5年、10年後を見据えたときに、集落がもう維持できないような状況が現に来ておるわけですよ。そういった状況の中で、地域だけではなかなか難しい面も抱えていますから、行政と地域と一体となったその辺の課題、調査といたしますか、今後、どう対策を講じていくかという部分の中に委員会といたしますか、調査委員会といたしますか、対策委員会といたしますか、その辺を講じていく必要が今あるんじゃないかということで切に思う一人でありますけれども、その辺の対応といたしますか、対策を考えておられれば御答弁をお願いしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私は、その対策委員会そのものは、それこそが私は議会の仕事だというふうに思っているんですね。議会が地域の皆さんたちの声をきちんと伺っていただき、そしてそれを施策にして反映せしめるという意味では、私は議会の皆様方に非常に期待をしているところであります。その上で、実は人口減少して経済が反映したのは世界史上1個しかないそうなんです。14世紀のペスト、スペイン熱が大流行したときのルネサンス前のヨーロッパだけだそうです。ですので、人口減に突入をして経済の反映をしたというのは古今東西、その一点だけという

ふうに歴史家は評価をしているそうですので、いかにこの問題が難しいかということはありません。しかし、私たちには今まだもう少し時間があります。したがって、先ほどおっしゃったとおり、日本人が持つ知恵と努力と熱意でこの難局をいけるといふふうに私は楽観的に思っておりますので、ぜひこういったことをやると、やりましょうといったことをぜひ前向きな提案をしていただく、それが私は大切なことだといふふうに思っております。

いずれにいたしましても、私は人口が増加するということは、そのまちに魅力がないと絶対に増加しない、小手先だけの施策ではだめだと私自身は思っております。そういった意味で、魅力あるまちづくりというのは、魅力ある人がいるということだと、私はまず道義だと思っておりますので、ぜひそういった意味からでも、議員の皆さんたちの力をぜひ一つの点として結集をしてほしいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

日本を背負うといえますか、武雄市を背負ってくれるのは若い青年といえますか、子どもたちであるわけですから、その辺はいま一度対策を現に講じていくような形の中で、もう一度していきたいというような形で思っております。

今、少子化の話をさせていただいておりますけれども、また一方では高齢化と、超高齢化時代ですよ。若木の話ですけれども、3人に1人は65歳という時代ですから。そういうような状況の中で、高齢化対策は環境整備だと思います、私は。

そういうような状況の中で、地域包括支援センターの機能についてちょっとお尋ねをさせていただきたいと思っておりますけれども、その前に武雄市の今ひとり暮らしの高齢者、あるいは高齢者のみの世帯が年々今増加をしておりますけれども、具体的に武雄市ではどのぐらいいらっしゃるのかどうか、お尋ねをしていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

お答えいたします。

2月18日現在の住民基本台帳の数値では高齢者のみ、65歳以上の老人の方のみの世帯が1,483世帯、人員で3,048人、世帯に占める割合が8.75%となっております。また、ひとり暮らしの高齢者は1,847世帯、世帯に占める割合は10.9%となっております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

非常に多いですね。減るということはないと思っておりますから、これは年々増加の一途をたど

る状況ですよ。特に、ひとり暮らしの方を非常に心配するわけですね。そういった状況の中で、包括支援センターにおいては、ひとり暮らし、あるいは高齢者の方々が安心して暮らせる、自立できるように運営が開始をされているわけですが、実際、先ほどのひとり暮らしの高齢者の方々が、いろんな相談をどこに持ちかけていいかわからないという状況の中で、包括支援センターにどのくらいの相談が今実際寄せられているのかどうか、ちょっと確認をしておきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

19年度の実績でございますけれども、相談件数は2,257件となっております。内訳は、介護保険その他保健福祉サービスに関する相談が2,250件、権利擁護、これは成年後見制度ですけれども、これが5件、高齢者虐待に対する相談が2件ということになっております。

武雄市では、6つの福祉法人に在宅介護支援センターというものがありますけれども、そこに業務を委託しておりまして24時間365日、相談に応じております。また、困難な事例につきましても、在宅介護支援センターより市の健康課の介護係、地域包括支援センターで対応しているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

相談件数が2,257件ですか、非常に多いですね。やっぱりもうここしかないわけですよ。介護のこととか、病気のこととか、いろんな相談業務をここで一括して受けていらっしゃるかと思います。ただ、なかなか年配の方ですから、朝9時から夕方5時の時間帯に電話してくださいというわけいかんものですから、非常に全国的にも24時間365日で対応していこうというふうな機能の充実が今全国的に課題になっております。

武雄市民病院においても24時間365日というような形の救急体制が今整っておりますけれども、この介護に関しても、武雄の杵藤地区においては対応をしていらっしゃるかと思いますけれども、その辺の体制の整備が十分に行き届いているのかどうか、ちょっと確認をさせていただきたいと思いますが、御答弁をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

現在のところ、地域包括支援センターを中心に6つの施設でやっておりますので、介護のケアマネジャー等も市では6名ふやしてやっておりますので、十分でないながらもやっているとございますけれども、今後の高齢者の増加に伴うところは今苦慮しているところでござ

います。

○議長（杉原豊喜君）

4 番松尾陽輔議員

○4 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

対応に苦慮することじゃなくて、前向きに検討をしていただくように、ぜひともお願いしたいと思います。非常に大切な対応ですよ、この辺は。不安にかられている方が多いわけですから、それをいかに安心して暮らせる、自立していただくような体制を整えるかということが一番大事なところですから、よろしくお願いを申し上げながら、反面、きのうもいろいろな介護事業に関しては質問も出ておりましたけれども、介護サービスを提供する人材の育成といいますか、人材の確保でちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、介護の現状を見てみますと、非常に厳しい状況が現実にあるわけですよ。

ちょっと紹介してみますと、介護の現場は重労働、低賃金のため、なかなか、若い人たちが情熱を福祉に燃やして勤務したものの、先ほど言いました重労働、低賃金のためになかなか勤務が続かないというような状況が現に出てきております。ということは、生計の見通しが立てられんということですよ、収入が低いものですから。

ちょっと参考的な資料では、07年度ですけれども、介護職員の1年以内の離職者は21.6%、全産業の平均からいきますと15%も上回っていると、介護の離職者が。平均年収においても福祉施設の介護員で315万円ですよ。全産業の労働者が511万円ですから、もう6割程度しかないというのが現実です。というようなことで離職者が多いわけですね。せっかく福祉に志ある者が行っても生計が立てられないというのが現状ですよ。

そういった状況の中で、介護職員の賃金をどうしても引き上げねばということで、処遇改善のために政府が10月より3%介護報酬の引き上げを盛り込んでおります。ただ、それに伴って介護保険料の急激な上昇が出てきます。そういったことで、政府も約1,000億円の緊急特別交付金を準備しながら介護保険料の急激な上昇を抑制しておりますけれども、当杵藤介護保険事務所内では3%の引き上げに関してどのような形で介護職員の待遇改善までに至るのかどうか、お尋ねをしていきたいと思っております。御見解をお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

今回の介護保険料につきましては、杵藤広域圏内の介護保険運営協議会で第4期になりますけれども、これ21年度から23年度分までですけれども、第4期の保険料について運営協議会で承認がなされて、議会の議決を経るばかりになっております。

改定に当たりましては、利用者の負担割合の変更、1号被保険者が19%から20%、今議員がおっしゃられました介護報酬の改定、これは3%ということになっております。給付額の

増加要因はあるものの、今回、借入金の償還金、これが4億4,650万円ほどありました。これを償還したということと、それと積立金、これが9億5,000万円あることから、第4期の基準月額が月額4,300円前後になると思われます。市長が先ほど申しましたように、これは現行の保険料が基準月額5,123円ですので、月額で約800円、約16%の減額になるようになっております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

先ほど國井部長の説明ですが、この改定によって介護従事者の処遇改善により従事者の確保が図られるということ、そして夜間の手厚い職員配置や手厚い看護職員の配置に対する評価もなされ始めているようです。介護の現場にとっては一定の改善が図られると思いますが、いずれにしても検証をきちんとしたいというふうに思っているんですね。私なんか、たった3%かというふうにちょっと思うんですよ。ですが、これが効果があるかどうかというのはもう少しお時間をちょうだいして、暮らし部を中心に検証させていただきたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

4番松尾陽輔議員

**○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

介護保険料が約800円ほど下がるということですね。よろしくお願ひします。

19年度の介護保険事務所の決算書を見ますと、146億3,200万円の歳入決算で支出が136億4,700万円、差し引き9億8,000万円余剰金が出ているわけですよ。この余剰金は保険料の削減に活用しなさいとなっておりますよ。その分が今回800円の減額のほうにこの余剰金は充てられるということで、大分高齢者の方々も負担の軽減になれるかと思ひます。

ただ、そういった形で、要は、それはそれとしていいわけですがけれども、今回3%は介護報酬、介護職員の給与の値上げの——値上げといいますか、給与の分の3%ですから、ただ、それは丸ごと事業所に行くわけですから、あとは事業所がどう従業員の給与に、報酬に還元されるのか、介護事業所は非常に運営が厳しいものですからどうしても運営費に回るというケースもあるかと思ひますから、その辺の事業所の検証といいますか、その辺はよろしくお願ひを申し上げておきたいと思ひます。

ちょっと時間も過ぎる中で、最後ですがけれども、非常に周辺部におきましては交通網の整備がまだまだ行き届いていないというふうな状況が現にあります。現に昨年、公共交通活性化協議会ができて、地域交通のあり方が検討されているかと思ひます。ただ、どういうふうな形でその検討が進んでいるのか、なかなか現場では見えないというか、そういうような状



況で、どういうふうな形で今進んでいるのかどうか。また、もしよければ周辺部対策としての循環バスの回数の増便と各路を、いま一度再検討をそこに盛り込んでいただきたいということで御提案を申し上げたいと思いますけれども、その辺の交通会議の状況を最後にお尋ねしておきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

お答えいたします。

平成19年11月19日に第1回の地域公共交通会議を開催いたしております。これまでに3回開いております。第2回の会議でバスの運行及び利用状況を示して、今後見直すべきところの優先順位を示しております。第3回目の会議におきましては、山内町における乗り合いタクシーの予約制の変更、その関連のバス路線の見直しを行って、平成20年の10月から試験運行を開始いたしております。

今後、第4回目を6月に開催を予定いたしております。今から職員が実態調査、バスに乗り込んでどれくらい乗っておられるのか、そういうのもしながら、あるいは地元の区長さんたちとの意見交換、そういうのを踏まえて、6月には新たな見直し案を図っていききたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

4番松尾陽輔議員

○4番（松尾陽輔君）〔登壇〕

これで私の一般質問を終わります。